

# 今月の視点

## 民間の慢性期病院における悩み

理事 吉水 一郎

平成30年(2018年)4月より第7次地域医療計画を迎え、団塊の世代が後期高齢者となる平成37年(2025年)を見据えた地域医療構想、すなわち地域における医療機関の調整会議での活発な協議が進められている。第7次山口県保健医療計画(第6章:医療提供体制の充実と地域医療連携の推進)に記載のある通り、限られた医療資源の中で適切な保健医療サービスを提供するため、地域の「一次医療」、「二次医療」、「三次医療」の役割を分担し、「病院完結型」ではなく「地域完結型」の効率的で質の高い医療が提供できる体制整備の推進が求められており、地域の民間病院においても同様に地域医療構想に沿った病床機能への転換など、地域医療のニーズに対応するために連携・協力することが必要である。

また、平成30年は診療報酬、介護報酬の同時改定が行われ、介護保険事業、医療費適正化計画など同時に動き出さなければならない状況下であるが、山口県は一人当たりの医療費額が全国第2位であり、慢性期、療養病床数も人口比で全国第2位となっており、地域医療の体制整備のため特に大きな転換が必要な地域と考えられる。実際、山口県地域医療構想にて算出されたデータでは、将来必要な慢性期病床は現在の半分程度である5,000床とされた。この将来削減が必要とされる5,000床に相当する医療需要を担うのは在宅医療であり、地域における在宅医療の充実・強化が求められるところである。また、本年度より院内施設の介護医療院が新設されており、在宅復帰が困難で医療必要度の低い患者は介護医療院への転換が進むこととなるであろう。

さて、下関市内で運営している自院においても全病床の約半数が慢性期療養病床であり、将来の地域人口構造の変化に伴い、2025年にどれだけの医療需要があるのかを検討し、病床の転換を考える時期に直面しているが、慢性期病床をどう転換するかを考える際、どうしても急性期病院の病床転換などの動きが大きく作用する。下関では大きく4つの公的病院があるが、地域医療構想にて算出されたデータでは、将来必要な急性期病床数は1,000床となり、効率のよい医療体制のため500床の2病院に統合する方向で動き出すこととなった。しかしながら4つの公的病院の経営基盤がそれぞれ異なるため、現在では統合が進んでおらず容易い話ではなくなっている状況である。このような状況の中、4つのうち3病院では統合まで病院経営をする上で、病床稼働が芳しくない一部急性期病床の回復期病床への転換している。今まで地域の慢性期病院は急性期病院からの紹介患者が大多数を占めていたが、ここ数年では紹介患者は激減しており、これまでの慢性期病院の他力本願的な考え方では入院患者の確保は困難となってきている。慢性期病院は独自で一部の高齢者の救急患者の受け入れを行う機能が必須となり、同時に慢性期病床の転換についても考えなければならない。この現状が継続すると市内の急性期、回復期、慢性期それぞれの患者の奪い合いが起り、健全な病院運営がなされなくなる可能性があるかと危惧している。

また、前述したように、病床の転換(削減)を進める上で在宅医療の充実・強化は重要である。今後は、公的病院はもちろん民間病院による在

宅療養支援診療所、介護施設、介護事業所等の患者へのバックアップ体制強化がさらに必要となる。地域全体として相互に協力・連携を強め、高齢化に伴う医療ニーズに対応していくことが重要であり、自院においてもその役割を担っていきたいと考える。また、さらに、地域の民間病院の役割として、日本版 CCRC (Continuing Care Retirement Community: 継続したケアを提供する高齢者コミュニティ) を意識した医療型のまちづくりを考えることも必要である。この CCRC とは高齢者が最後まで安心して生活を送れる場のことと、高齢者の介護の担い手であった女性の社会進出、また、超高齢化に伴う医療・介護資源の不足などの問題がある中、米国では 19 世紀から現在まで増加してきている。日本においても、リタイア後、まだ元気なうちに地方に入居 (移住) し、

移住地での社会交流や地域交流を通して豊かな健康寿命の延伸を目指し、その後、要介護状態になっても同じ場所で継続的に医療・介護を受けられるように多面的に整備された場所、つまり CCRC が必要とされており、高齢者の複合型施設を整備していく中で郊外の民間病院が担える役割は大きいと考える。

最後に、第 7 次医療計画で示される 5 疾病 5 事業の医療機能と地域医療構想での医療機能の整合性をどのようにするか、現在、調整会議では医療現場が混乱を来さないように慎重に協議を進めている。大学・急性期病院、そしてこれまで地域医療を支えてきた地域密着型の中小病院の声が聞き入れられる議論を進めていただきたい。

## 「若き日 (青春時代) の思い出」原稿募集

### 投稿規程

字数: 1 頁 1,500 字程度

- 1) タイトルをお付けください。
- 2) 他誌に未発表のものに限ります。
- 3) 同一会員の掲載は、原則、年 3 回以内とさせていただきます。
- 4) 編集方針によって誤字、脱字の訂正や句読点の挿入等を行う場合があります。また、送り仮名、数字等に手を加えさせていただくことがありますので、ある意図をもって書かれている場合は、その旨を添え書きください。
- 5) ペンネームでの投稿は不可とさせていただきます。
- 6) 送付方法は電子メール又は CD-R、USB メモリ等による郵送 (プリントアウトした原稿も添えてください) をお願いします。
- 7) 原稿の採用につきましては、提出された月の翌月に開催する広報委員会で検討させていただきますが、内容によっては、掲載できない場合があります。

#### 【原稿提出先】

山口県医師会事務局 広報・情報課

〒753-0814 山口市吉敷下東 3-1-1 山口県総合保健会館 5 階

TEL: 083-922-2510 FAX: 083-922-2527

E-mail kaihoh@yamaguchi.med.or.jp